



2016年度 エコロ福祉基金(一般助成)組合員投票

応援したい団体への投票とメッセージをお寄せ下さい！

<生活クラブ虹の街エコロ福祉基金>

生活クラブ虹の街では、エコロ制度の掛金のうち一部を地域で活動する団体へ「エコロ福祉基金」として助成をしています。

《対象事業》

- ① 高齢者、障がい者、次世代育成、生活困窮者が暮らしやすい社会になるための事業
- ② 高齢者、障がい者、次世代育成、生活困窮者が暮らしやすい社会になるための調査・研究事業

《対象団体》千葉県内で活動するNPO、市民活動団体

《助成総額》200万円（1団体あたり上限30万円）

《運営団体》公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

《選考》公益財団法人ちばのWA地域づくり基金が設置する助成褒賞委員会（虹の街理事も2名参加）

☆選考に先立ち、出資者である組合員が応援する団体を選ぶための組合員投票を行います☆

<組合員投票と助成までの流れ>

11月1日(火)～11月15日(火)	助成応募団体受付期間
12月5日(月)～12月24日(土)	組合員投票期間
1月	一次選考会
2月18日(土)	公開プレゼンテーション・選考会 (13時より千葉市生涯学習センター 大会議室)
3月上旬頃	選考結果通知
3月下旬	助成実施 ※事業実施は2017年度

下記の応募団体より応援したい団体を選択。

ひとり2団体まで投票ができます。

※投票用紙と詳細は最終ページです。

締め切りは、12月24日(土)

2016年度 エコロ福祉基金(一般助成) 応募11団体リスト

分類： **次世代**次世代育成支援 **高**高齢者思念 **障**障がい者支援

番号・団体名	日頃の主な活動	応募事業名・事業概要	助成を受けたことによる結果
番号：1 障 NPO 法人おやこカフェ ◆活動エリア：千葉市 ◆申請金額：300,000円 【主な費目】備品費、デザイン費、印刷費、会場費など	障害児・者を対象に体を動かせる活動場所作りを行っています。月に1度のスポーツサークルでは、パラリンピック競技種目や全国障害者スポーツ大会等の種目を取り入れています。参加者の身体能力に合わせたプログラムを作成しています。プレーパークは千葉市内の公園で月に1度地域のお父さんが開催し、地域の多世代交流の居場所となっています。	【地域スポーツ振興事業】2020年パラリンピックは、千葉県も競技会場となるので、障害者スポーツボランティア育成講座を開催します。前半はカリキュラムを作成し、後半で市民向けの養成講座を行います。座学、ディスカッション、実技などで競技種目を学び、実際に体験もします。興味または、学ぶ意思のある方なら誰でも参加できます。またプレーパーク内に道具を保管するための倉庫を設置していつでも使用できるようにします。	障害者にとってのスポーツの重要性や必要性を理解し、興味を持ってもらえます。また、2020年の東京パラリンピックが成功するためには専門家だけでなく多くの市民ボランティアが必要になるので、このボランティア育成講座を受講した方々の果たす役割は重要です。

番号・団体名	日頃の主な活動	応募事業名・事業概要	助成を受けたことによる結果
番号：2 次世代 <u>NPO 法人世界のともだち</u> ◆活動エリア：船橋市 ◆申請金額：300,000円 【主な費目】研修費、謝金、交通費、会場費など	タイのストリートチルドレンへ教育資金援助を10年以上続けています。一昨年から子育ての不安や悩みを抱える母親へ家庭訪問型子育て支援「しゅっぽぽ」を東船橋地域で行っています。転居や第2子の誕生、など外出できない理由を抱えた母親の孤独を軽減するため、傾聴を学んだボランティアが週に1度2時間程度自宅を訪問し、日常生活に寄り添いながら不安を取り除く活動をしています。	【ホームスタートを始めるための開催準備事業】ホームスタートは未就学児の家庭に研修を受けたボランティアが訪問する家庭訪問型子育て支援です。すでに千葉県内にも活動している地域がありますが、船橋でも立ち上げます。組織の立ち上げには研修を受けたオーガナイザーが2名必要です。スキルアップや情報交換など質の高い支援にしていくためにはノウハウをもち全国規模の組織「ホームスタート」の一員として活動していく必要があります。	2019年には船橋市は保育施設の利用率を40%まで上げる計画ですが、60%の家庭は自宅で育児をするということになります。問題のある家庭には保健士の訪問などの支援がありますが、ちょっとした悩みを自分一人で抱える母親に対しては周囲が気づかない限り支援はありません。そのグレーゾーンの母親達に寄り添うことが、問題が起こる前の予防となり、前向きに育児に取り組んでいける母親たちが増えます。
番号：3 障 <u>NPO法人 ちばMDエコネ</u> <u>ット</u> ◆活動エリア：船橋市 ◆申請金額：300,000円 【主な費目】設備費	障害のある人もない人も共に学び、暮らし、働くことができるノーマライゼーション社会の実現を目指して、「コミュニティカフェひなたぼっこ」の運営を中心に、清掃活動やポスティング、軽作業に取り組んでいます。また、千葉県との協働で「ノーマライゼーション学校支援事業」を2009年から継続して行っています。	【バリアフリーのカフェづくり（入ロースロープ設置）】「コミュニティカフェひなたぼっこ」は、障害のある人もない人も共に働くカフェです。その入口で使用していた木製スロープが壊れ、応急処置で段差プレートを設置していますが、車いすやベビーカーの利用者や障害のある方から、段差プレートでは足元が危ないという事を言われています。バリアフリーカフェとして運営しているので、早急に入口にスロープを設置し、誰でも利用しやすいカフェにします。	スロープを設置することで、まず車いすやベビーカーの利用者や足の不自由な方など、誰もが利用しやすいカフェとして認知され、これまで以上に地域との交流が盛んになります。そしてすべての人に利用しやすい店づくりをさらに進め、「コミュニティカフェひなたぼっこ」がハード・ソフト両面から利用しやすい環境となります。また、障害のある人への配慮が進むよう、情報発信も行っていく予定です。
番号：4 障 <u>NPO 法人こども子育て・</u> <u>発達支援研究会</u> ◆活動エリア：松戸市 ◆申請金額：300,000円 【主な費目】事務備品費、謝金、人件費、など	国内の子どもの発達支援制度は、ライフステージごとに縦割りで設計されているため、特別な支援を継続的に必要とする子どもの場合は支援が一貫せず空白期間が発生してしまうことがあります。それを解決するため、当事者やその家族、関係者を対象とした相談事業や、地域に対する啓発・研修活動、親の会などへの支援育成活動などを行っています。また生涯にわたり使用することの出来るライフサポートファイルの普及を行っています。	【障害のある子どもを持つ保護者に向けた「ライフサポートファイルの活用」普及事業】縦割り行政から生じる、支援の分断を補うためのライフサポートファイルは支援を必要とする者にとってはとても重要です。多くの行政がこのファイルの「配布」を始めましたが、補助の必要な子供をもつ親にとって、時間を使って一人で書類を埋めていく作業はなかなか続きません。渡されたファイルを有効に活用するために、本助成金で「活用」「定着」をさせるための活動を行います。	松戸市では平成30年には「松戸版ライフサポートファイル」の配布を目指しています。ユーザー側が意欲的に活用ができるよう、定期的かつ継続的な「作ろう会」を開催し、年間10回参加者数のべ150名での参加者がライフサポートファイルを有効に活用できるようになります。また、松戸市だけでなく近隣の市町村へも「作ろう会」が広まっています。
番号：5 次世代 <u>One Step</u> ◆活動エリア：船橋市 ◆申請金額：298,000円 【主な費目】備品費、製作費	美容師約10人の有志で、船橋市内の児童養護施設の子供たち20~30人へ月に1回、また母子生活支援施設の児童には随時、ボランティアカットを行っています。継続的に訪問することで、子ども達との信頼関係を築き、話を聞いたり働く姿を見せたり、職業体験の場を提供したり、また、卒園後の社会での知り合いの一人としての役割を担っています。ほかにも勉強会や、メンバーのサロン活動を通じての社会への発信活動なども行っています。	【団体の知名度向上及び訪問美容活動の充実化】団体の活動が認知され、船橋市以外の地域からもイベント参加の依頼が来るようになりましたがすべてボランティアで活動をしているため、団体ホームページや活動を紹介するためのチラシを作成できません。また、訪問美容に行く際も、自分が使用する用具をすべて持参するためかなりの荷物量になります。ボランティアの美容師が身軽に負担なく参加できることでメンバーを増やし、一つでも多くの施設に訪問できるように会での備品を揃えます。また、支援者を広げるため、活動を紹介するための情報ツールを充実させます。	ボランティアカットへの参加が容易になったことで、活動メンバーが2倍になり、活動支援を10施設に増やすことができます。また、職業体験をする高校生が2名でしたが、年間10名に場を提供できるようになります。また、知名度や信頼度が増えることで組織としての基盤が強化されます。

<p>番号：6 次世代</p> <p><u>NPO 法人NPOB-Net 子どもセンター</u></p> <p>◆活動エリア：酒々井町</p> <p>◆申請金額：300,000 円</p> <p>【主な費目】謝金、会場費、</p>	<p>大学生を中心に地域の子どもたちと協力して地域のイベントの企画・運営や、地域の方々と協力して子どもたちが安心して過ごせる放課後居場所づくりを行っています。毎月行われる子どもを対象としたイベントは季節に合ったものを行い風習や日本の文化について楽しみながら学ぶ機会を作ったりしています。</p>	<p>【第 11 回 B-Net 子ども夏祭り～みんな巻き込め 祭りだわっしょい～】ゲームやタブレットなどの普及により子どもたちが地域や人に関する機会が減少しています。そしてそのことによっておこる子どもたちのコミュニケーション力の低下が懸念されています。子どもたちが中心となる B-Net 夏祭りを開催し、その運営メンバーとして祭りを作り上げたいというやる気のある子どもスタッフを募集します。地域の方にも手伝いをお願いし地域ぐるみのイベントを行います。</p>	<p>夏祭りを毎年続ける事で、B-Net に興味のある学生や地域の人を増やし、地域行事への参加が増え、地域活性化に繋がります。また、地域にとっても積極的に子育てに参加できる環境を作ることができます。そしてそれが子育てをしたいと思える地域になっていきます。</p>
<p>番号：7 障</p> <p><u>NPO 法人市川ことばの会</u></p> <p>◆活動エリア：市川市、千葉市</p> <p>◆申請金額：300,000 円</p> <p>【主な費目】消耗品費</p>	<p>発達障害や知的障害等により日常生活で困り感を感じている子どもや保護者を対象に言語面の発達を促す支援を行っています。検査結果をもとに専門職による療育の場を提供するため、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業を行っています。</p>	<p>【児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業】発達障害の疑いのある子どもは通常学級に 6.5% いるとされています。千葉市では療育相談を希望してもは初回相談まで 2、3 か月待ちという状況です。相談しても支援を受けるにはさらに時間が必要です。適切な検査や評価をもとに療育を行うために、その検査のための療育道具を購入し、専門職による療育の機会をより多くの子どもにできるようにします。</p>	<p>適切な療育支援がより多くの子どもに行き届く事、またその結果を地域で共有する事で、障害があっても過ごしやすい地域社会になっていきます。また専門職による適切な療育を受けられる場として社会に認められることで運営が安定します。さらに他の事業所や関係諸機関と連携を取り合える関係を築き、地域で子どもを支える体制を作る事ができます。</p>
<p>番号：8 障</p> <p><u>NPO 法人ほっとすペーす・つき</u></p> <p>◆活動エリア：佐倉市</p> <p>◆申請金額：300,000 円</p> <p>【主な費目】備品費、人件費、光熱費</p>	<p>佐倉市とその近隣の福祉の増進と子どもの健全育成等を目的とし、子どもから高齢者の中で、生活する上で支援を必要としている人々を対象に、居場所の提供と、イベント企画、勉強会開催。課題解決のためのサポートを行っています。</p>	<p>【居場所事業・訪問事業】佐倉市で、生活を送るうえでの課題を抱える人への居場所事業を行っています。どの年代の利用者であっても生きる事に楽しさを見出し、自己肯定感を高める事ができるような場所になってきています。ところが利用者の増加により事務作業が増え、処理が滞りがちになってきてしまいました。そのための人件費確保と、事業拡大による各種お知らせを発行するための業務用プリンタを購入します。</p>	<p>全ての年代の人々が安心して過ごせる居場所では、課題を抱えている人々に寄り添う支援を行う事ができ、地域全体の福祉の底上げにつながります。また、不登校の子どもや引きこもりの大人への訪問事業は社会問題化への予防につながります。</p>
<p>番号：9 次世代</p> <p><u>NPO 法人市川子ども文化ステーション</u></p> <p>◆活動エリア：市川市</p> <p>◆申請金額：300,000 円</p> <p>【主な費目】人件費、整備費</p>	<p>全ての子どもとおとなが人と人の中で育ち合いわくわくドキドキ笑顔があふれる社会を実現するために、様々な関わり方ができる体験活動やひとりひとりが安心できる「居場所」をつくっています。また、芸術文化に触れ、感動を共有する場も作っています。</p>	<p>【小学生の放課後の居場所づくり整備事業】市川市は毎年保育園を増設していますが、待機児童は減少していません。にも関わらず、小学校の学童保育の待機児童はいないと市は認識しています。そのためこの学童保育場所は 100 人を超す子どもの受け入れをしており、一人ひとりに丁寧に対応できる状態にはなっていません。家庭や学校以外の居場所として、子どもたちが放課後にふらっと立ち寄れる場所を、現在の事務所を改装して作ります。</p>	<p>こういった居場所は、学生やシニアボランティアなど、親や教師以外の大人が関わる場のため、学校以外の仲間が地域にできます。つまり多様な人々や、様々な価値観に出会うことができます。地域の大人とのナナメの関係が構築されるため、特に生きづらさを抱えている子どもにとってが心のよりどころとなります。</p>

